

オンライン作文・小論講座

文章博士

添削実例ーその9

小6 川島ゆりこさん作品

<http://bunshohakase.com>

■この添削実例はご本人および保護者の許可を得て作成したものです。
学年は作成当時のものです。

通常の添削とちがい、当講座では1作品を3回書き直す方式をとっているため、作品の完成度が高くなることが期待されます。作品が変化向上していくようす、詳しい添削レポートをごらんください。

制作・著作：考える学習をすすめる会

<第1通目作品および添削>

小6 川島 ゆりこ さんへ

●練成コース1 課題目-第1回作品添削

文章博士講座 やなぎさわ たつしる 柳沢 達城

添削日:平成17年5月4日

やあ！ はじめまして、ゆりこさん。
たっちゃん先生だよ。ゆりこさんの作文は「鈴虫」からすべて読んでいた。ゆりこさんのガンバリにはいつも感心だね。そして、今回「友達」の提出メールにまたもや「**もっともっと上手になりたいのでよろしくお願いします**」と書いてくれた。うれしいなあ。ゆりこさんの熱意にこたえたいので、時にはきびしくいくよ。でもしっかりついてきてほしい。それでは、いっしょに勉強を始めよう！！



●まずは、ゆりこさんの作品「友達」を読み返してみよう。

友 達

私の友達に、1年生から5年生まで、ずっと一緒のクラスだった女の子がいます。その子はとても話し上手な子で、しかも、個性的で面白い子です。その友達と話していると、とても楽しいです。5年生の最後の時、成績が下がって、悲しんでいると、「どうしたの？」と心配して私のところへ飛んできてくれました。その友達の優しさに泣きそうになりました。私はその友達がいて良かったなあと思いました。私は、6年生も一緒のクラスだったらいいなあ、と思ったのでその友達と、おまじないをしました。おまじないの内容は、まず、お互いの名前を紙に書いて、その紙を折りたたみます。そして、筆箱の中にクラス替えの発表のときまで、開かずにずっと入れておくのです。

しかし、おまじないの効果もなく、その友達とは違うクラスになりました。5年間も一緒に、その中の3年間も仲良くしていたので、しょうがないかなと思いますが、その友達がいないクラスなんて、10人がいないと同じ感じがします。他の友達がいないわけではありませんが、少しだけ寂しいです。しかし、いつまでも友達と離れたからって、悲しい感じでい

たら、私はだめだと思います。だから私の大好きな、友達がいなくても、新しいクラスで頑張っていきたいです。

作品を読んだ最初の感想はね、「もし、これがふつうの小学校6年生の作文としてなら、**80点、いちおう合格点**をあげられます」ということ。

でも先生はゆりこさんをふつうの6年生と考えていないんだよ。

君は**中学生でもかなわないような、するどい観察力、感じる心、そして考える力を持っている。つまりスゴイ才能がある**。だから、心を鬼にしてハッキリ言う。「今回の作品は、とても残念だけど、ぜんぜん川島ゆりこらしくない。だれでも書けるような文章になってしまった」と。

もし、まちがっていたら謝るけれど、**ゆりこさん自身、この作品にあまり満足してない**のではないだろうか？ 作品を読むと、「友達」を選んで書いてはみたものの、「何かがちがうなあ」というゆりこさんの迷いが伝わってくるんだ。そして君は「なぜ」そうってしまったのか自分でもよくわからない。違うかな？

それでは、ゆりこさんが心から満足できる作文を書けるようになるために、

先生といっしょに勉強だ！ いいね！

●書く前に、もう一度「友達とは何か」をじっくり考えてみよう！

さて、ゆりこさん、心の準備はできた？

今回、僕がどうしてもゆりこさんに伝えたいことは次のことだよ。



身のまわりの「できごと」について感じたことだけを書く作文ではなくて、

「できごと」をきっかけにして、今まであまりよく考えなかったことについて、「もうこれ以上は無理よ！」と机をたたきたくなるぐらい、考えぬいたことをぶつける作文だ！

さて、ここでしっかり考えてみてほしい。

ゆりこさんにとって「友達」とはいったいなんだろう？

もっと言うと、友達と「親友」とは何がちがうんだろう？

ゆりこさんは、願いもむなしく、大事な親友と離ればなれのクラスになってしまった。こういう時は誰だって悲しいし、さみしい。けれども、それだけを書くのはちょっともったいない。この「事件」はつらいけれど、親友について考えるのにはとてもいいきっかけになった。だって、その友達はまだ同じ学校にいる。友達って、どうしても、いつでもそばにいて、毎日のように行動をともにしていなくちゃいけないものかな？

この質問には正しい答えなんかない。むずかしくて何も答えが出ないかもしれない。そのときは「結局よくわかりませんでした」でもかまわないよ。

もちろん、ひとりきりで考えることはない。**お父さんやお母さんにも意見を聞いてみてごらん。答えてもらったことは、かならずノートにメモを取ること！**

●考えたことを整理して形にしよう！

友達について、自分自身でよく考えたり、家族に聞いてみたりして、それをノートにメモするところまでは実行できそうかな？

その準備ができれば、下のような**表をノートなどに書いて、文章の組み立てを考えること。**

たとえば、次のような順序で組み立てをしてみよう。内容のヒントも参考にしな。

段落	書き出し例 & 内容のヒント
第 1 段落 はじまり	いままで私は友達について………のように考えていました。……… *これから自分が書こうとすることについて短めに紹介する。
第 2 段落 自分が実際に 体験したできごと	私が6年生になる新学期のクラス替えで……… *体験したことをわかりやすく書こう。でもあまり長くならないように。
第 3 段落 体験をきっかけに 自分が考えたこと	たしかに、親友がすぐ近くにいなくなるのはさみしいことです。 けれども……… *ここはしっかり書こう。
第 4 段落 まとめ	今はまだ新しいクラスになれていませんが……… *「考えたこと」をもとにこれから自分はどうしていきたいか。

●文章にまとめよう！

上の表がゆりこさん自身の手で完成したら、作文の90%は完成だよ。あとはつながりを考えて、文章にしていくだけ。一番難しいのは友達について考えることだったものね。それでは2通目を待っているよ！

<第2通目作品および添削>

小6 川島 ゆりこさん

練成コース1 課題目-第2回作品添削

★★★★☆☆☆☆☆ コース合計9通のうち2通提出しました。

文章博士講座 やなぎさわ たつしる 柳沢 達城

添削完了日:平成 17年5月 18日

やあ、元気かい？

たちちゃん先生だよ。ゆりこさんの2通目、キリンのように首を長〜くして待っていました。今回も締切日ピッタリに送ってくれてありがとう。

☆それではまず、ゆりこさんの作品を読み返してみよう。



「親友とは」

私はこのごろ、親友について、よく考えるようになりました。6年生になる前は、親友とはただ一緒にいるだけで、親友になると思っていました。しかし、6年生になってから親友とは、ただ一緒にいるだけでは、親友とならないのではないのだろうか、考え始めました。

私が、こんな事を考え始めたのは、6年生になってからです。私には1年生から5年生の時まで、ずっとクラスが一緒だった私が考えた親友にぴったりの友人がいました。その友人は私の事を心配してくれたり、他の人に言えない悩み事を話せたり、その友人といるとなんだか、安心しました。6年生も友人と一緒にクラスがいいなあと思っていましたが、残念ながら違うクラスになってしまいました。私はショックで、1日中友人とクラスが離れてしまった事を考えていることもありました。

この事をきっかけに、その友人がいる事がどんなに幸せか分かったような気がしました。友達はいても、親友がいなければ、なんだかものたりない気がします。私が思うには、友達とは遊び仲間、親友とは離れていても心が通い合う仲間、いつでもなんでも相談でき、相手もいやがらないで自分のために骨を折ってくれる仲間だと思います。私は自分のために骨を折ってくれる友人がいた事がなぜか、誇らしく思います。もっと、友人に優しくしておけば良かったと思います。そういう友人がすぐ近くにいるとよく分からないものなんだと思います。だから、友人とクラスが離

れて、親友について考えられる機会ができて少しは、良かったと思います。より一層友人が大好きになれました。

これから私は、新しいクラスで、私が思う大好きな親友をつくりたいです。欲張りだと思いますが、やっぱり新しいクラスで、親友がいなかったらとても寂しいので、親友をつくりたいです。私が思う大好きな親友をつくるには、時間がかかるとは思います。まずは自分から話しかけていく事が大事だと思うので、色々な人に話しかけて、親友をつくっていきたいです。

●スゴイね！ 今回の2通目は1通目とはまったく別の作品と言ってよいくらい、ゆりこさんはしっかり書き直しをしてくれたね。「ふつうの作文」から「じっくりと考え、

表現しようとする作文」への大变身。

それにしてもこの書き直しはさぞかし大変だったろう。君が「**考えて、考えて、考えた～**」というしるしが文章のあちらこちらに残っている。

なんといっても今回のポイントはゆりこさんが「**親友についてしっかり考える**」だったわけだから、この難しい宿題を逃げないで、こなししたことが**大きなハナマル**だ。

●まだある。1通目の添削にあった、**文章の組み立てについての**アドバイスを上手に生かしてくれたね。これもハナマル。

●「ハナマルだらけで言うことなし。それでは終わり。」
と言いたいところだけど、これではゆりこさんにおこられちゃうね。

ではこれから、作品をさらにステキな文章にするために、細かいところをどう直していったらよいかをいっしょに考えてみようね！

●第1段落-書き出し部分

「親友とは」

私はこのごろ、親友について、よく考えるようになりました。6年生になる前は、親友とはただ一緒にいるだけで、親友になると思っていました。しかし、6年生になってから親友とは、ただ一緒にいるだけでは、親友とならないのではないのだろうか、考え始めました。

↑ 前回、僕のアドバイスは「これから書くことを簡単に紹介しよう」だったね。それはきちんと守られている。でも、この書き出しの段落が、いまひとつすっきりしないのはなぜだろう？

それは、**親友、6年生、考える**、などのように同じ「単語」を繰り返し使ってしまったせいだ。ここでワンポイントレッスンだよ。

<例1>

太郎は家族で東京ディズニーランドに遊びに行くことになった。太郎が東京ディズニーランドに行くのはこれが初めてだ。太郎は東京ディズニーランドに行くのが楽しみで夜も眠れなかった。

↑ 意味はわかるんだけど、これではむだが多すぎるよね。(^_^)

<例2>

太郎は家族で東京ディズニーランドに遊びに行くことになった。彼がそこへ行くのはこれが初めてだ。あまりに楽しみで夜も眠れないほどだった。

↑ これでもよくわかるよね。また、すっきりして読みやすくなる。

繰り返しをしないとはこういう意味なのです。(^_^)v

同じ言葉を繰り返し使わなくても文章がつながるように、作品全体も見直してね。

●第2段落-ゆりこさんの体験を書いた段落

~~私が、こんな事を考え始めたのは、6年生になってからです。~~

↑ この部分は書き出しに入れてしまうので削除しよう。

私には1年生から5年生の時まで、ずっとクラスが一緒だった私が考えた親友にぴったりの友人がいました。

↑もっとハッキリと、「〇〇さんという、私にとってたいせつな親友がいました。」としたらどうかな？ それから、「友人」より、**名前や、ニックネーム**を使ったほうが親しみがわくし、読みやすいよ。

その友人は私の事を心配してくれたり、他の人に言えない悩み事を話せたり、その友人といるとなんだか、安心しました。

↑ここは一文としては長すぎるよ。二つの文に分けてみよう。

「6年生になっても友人と一緒にのクラスがいいなあ」と思っていたが、残念ながら違うクラスになってしまいました。私は**ショックを受け**、1日中友人とクラスが離れてしまった事を考えていることもありました。

↑**赤文字部分**は付け加えてね。心のなかのつぶやきは、**一種の会話なので「 」**に入れる。

●第3段落-ゆりこさん自身が考えたこと

この事をきっかけに、その友人がいる事がどんなに幸せか分かったような気がしました。友達はいても、親友がいなければ、なんだかものたりない気がします。私が思うには、友達とは遊び仲間で、親友とは離れていても心が通い合う仲間で、いつでもなんでも相談でき、相手もいやがらないで自分のために骨を折ってくれる仲間だと思います。

↑すごい進歩！「さみしい、悲しい」という感想しかなかった前回に比べて、ずいぶん考えたあとが文章から伝わってくるよ。それにしても、「骨を折る」なんていう言葉をよく知ってるね。

ところで、**赤線の部分**はちょっと気になるぞ。なぜなら、「相手がいやがらないで自分のために」と言ってしまうと、自己中心的な考え方と誤解されてしまう危険があるから。きっとゆりこさんはそんなつもりで書いているはずはないよね。でもね、文章というのは、だれが読んでも気持ちが正確に伝わることを心がけないといけないよ。

たとえばここは、「**お互いに相手のために思って……**」となおしたらどうかな？

私は自分のために骨を折ってくれる友人がいた事がなぜか、誇らしく思います。もっと、友人に優しくしておけば良かったと思います。そういう友人がすぐ近くにいるとよく分からないものなんだと思います。だから、友人とクラスが離れて、親友について考えられる機

会ができて少しは、良かったと思います。より一層友人が大好きになれました。

↑赤線部分、またしてもハナマル！

◎ホントにこの部分はゆりこさんにとって、とても**大きな発見**だったと思う。

ふつうなら悲しいだけのできごとに、実は良いことが隠れていたことにあなたは気づくことができたんだネ。さすがゆりこさん！ 小学6年生というよりもかなり大人っぽい発想なのだ。でも、せっかく大事なことに気づいたのだから、「少しは、良かった」は、にあわないなあ……。ズバリ、「**本当に良かった**」というふうにも書いてもいいはずだよ。

この部分は、この作品の一番大事な部分になるので、もう一度書き直してほしい。さっきも書いたけど、「友人」ではなく、「〇〇ちゃん」とか、使っていたニックネームを使おう。

●第4段落-まとめ

これから私は、新しいクラスでも、~~私が思う~~大好きな親友をつくりたいです。欲張りだと思いますが、やっぱり新しいクラスで、親友がいなかったらとても寂しいので、親友をつくりたいです。私が思う大好きな親友をつくるには、時間がかかるとは思います。まずは自分から話しかけていく事が大事だと思うので、色々な人に話しかけて、親友をつくっていきたいです。

↑ゆりこさんの気持ちがよく伝わってきます。また、「これから自分はこうしていきたい」が表現できて、とてもよかった。

学校生活では、近くに親友がいるかどうかはとても大事なこともね。「自分から話しかける」というのも積極的で良いこと。すてきな親友ができるといいネ！

たっちゃん先生からのアドバイスは以上。
3通目を楽しみに待っているぞー



<第3通目作品および添削>

小6 川島 ゆりこさん

練成コース1 課題目-第3回作品添削

★★★★☆☆☆☆☆ コース合計9通のうち3通提出しました。

文章博士講座 やなぎさわ たつしる 柳沢 達城

添削完了日:平成 17 年6月2日

文章博士事務局 柳沢先生
こんにちは 第3回を送ります
がんばって何回も見直しました
よろしくおねがいします

川島ゆりこ



こういうメッセージ、とってもうれしいね。(^_^) こちらこそ今回もよろしく！特に、「何回も見直す」ことは文章を良いものにするだけでなく、「よく考える」ことになって、頭脳のトレーニングをしているわけだ。だれでもできることではない。それをゆりこさんはしっかりやっている。それにしても、1通目のときは「うまくいかない」という「迷い」があったけれど、いよいよ3通目のこのメッセージからはゆりこさんの強い気合が伝わってくるね。

そして、気合だけではなく、実際に君が一生懸命に努力しているからこそ書けること。エライ！

「親友とは」

私が6年生になる前は、ただ一緒にいるだけで、親友になると考えていました。でも今となって、私の親友についての考え方は違っていたのではないのかと思い始めました。

私には1年生から5年生の時まで、ずっとクラスが一緒だった、私の一生の親友とも言えるえみと言うニックネームの女の子がいました。えみは私の事をよく分かってくれて

◎作品全体が「同じ言葉を繰り返さずに意味が通じるように」のアドバイスを守り、前回よりもかなりもすっきりまとまった。

△「でも」は「話し言葉」に使う。「けれども」「しかし」が良い。「今となって」は「今の自分にとっては」の意味だね。

いました。だから、(⇒「くれていたので」としよう。)私はえみに他の人には話せない事もためらいもなく話せたので、一緒にいるとなぜか安心できました。だから、「6年生になっても一緒にのクラスがいいなあ」と思っていました。でも、私の願いもむなしく違うクラスになってしまいました。私はショックを受け、1日中クラスが離れてしまった事を考えていたこともありました。

この事をきっかけに、えみが近くにいた事がどんなに幸せだったか分かったような気がしました。友達はいても、親友がいなければ、なぜか物足りない気がします。私が思うには、友達とはただの遊び仲間だと思います。そして親友は友達と違って、離れていても心が通い合う仲間、いつでも何でも相談でき、相手も自分もいやがらずに相手のためにと思って、骨を折ることのできる仲間だと思います。私は今自分のために骨を折ってくれていたえみがいた事がなぜか、誇らしく思います。またもっと、えみに優しくしておけば良かったと思います。親友と思える友人がすぐ近くにいると、その友人がいるありがたみというものが良く分からないものなのだと思います。だから、えみとクラスが離れて寂しかったけれど、親友について考える機会ができて心底良かったと思います。そして、より一層えみが大好きになれました。

これから私は、新しいクラスでも、大好きな親友をつくりたいです。欲張りだと思いますが、やっぱり新しいクラスで、親友がいなかったらとても寂しいので、親友をつくりたいです。時間がかかるとは思いますが、まずは自分から話しかけていく事が大事だと思うので、色々な(ひらがなで⇒いろいろな)人に話しかけて、心が通い合う仲間となるきっかけをつかっていきたいです。そして、えみとも親友関係をずっと崩さないように、いつまでも仲良くしていきたいです。

◎名前を使うとやはり読みやすく、文に親しみがわくね。ただし、これも「彼女」と言いかえると、繰り返しをしなくてすむよ
△「だから」は便利でつい使ってしまうね。繰り返しを避けよう。

◎すっごくイイね！ 前の段落からすっきりつながる表現だ。ハナマル～！

◎「相手も自分も」は OK。良い書き直しができたね。ただし、「いやがらず・・・」がちょっと気になるな。この点は後で一緒に考えよう。

◎「なるほど、ゆりこさんはこれが言いたかったんだな」と、読んでいて、すなおに受け止められる表現になった。親友について新しい「気づき」があって本当によかった！

◎よく書いたね！ この一文は前回の作品にはなかった。けれどもゆりこさんが考えたことからすれば、離れていても親友は親友だもの。

<<作品の総評>>

すばらしい作品に仕上がったよ。その理由は次のとおり。

- ① できごと+感想という作文が、できごとの「意味」をよりじっくり「考え」、自分の「意見や気づき(発見)」がきちんと表現できた作品になった。この違いは大きいんだ。
- ② 4つの段落が、「本文の紹介と予告⇒体験⇒自分の考え・気づき⇒これからの決意」のように内容がきちんとわけられて、読む人にとって、わかりやすい文章の組み立てになった。
- ③ 同じことばの繰り返し表現が少なくなり、すっきりと読みやすい文章になった。

☆最後にもう一度、考えてみよう

さて、「相手も自分もいやがらずに相手のためにと思って、骨を折ることのできる仲間だと思えます。」のところ、もう一度考えてみよう。

これからもだれかが困っているときに、手助けするような場面はきっと何回もあるだろう。そのときに、「いやがらない」かどうかは、その人のものの考え方によって決まってしまう。「自分のことで精一杯。他人のことなんかかまっていられないよ」という考えの人なら、当然、「いやがる」だろう。反対に「困っている人がいたら助けて当然だ」という考えの人ならば、いやがらないだろう。たとえば、ゆりこさんのお母さん。よくわからないかもしれないけど、幼いころ君が夜中に何時間も泣き止まなかつたり、熱を出したときなど、夜もろくに寝ないですごしたことがきっと何回もあるはずだ。

このように、「助けて当然じゃないかと思える考えの持ち主どうし」があつてはじめて本当の「親友」や「親子」という、かけがえのない人間関係が生まれるのではないかな？ それには大きな努力が必要なのだ。



なぜなら「当然」と思えるまでには、自分の弱さと戦わなくてはいけないときもあるはずだから。そういう大切な関係が「最初から」あるわけじゃない。その意味で、ゆりこさんが書いた「ありがたみ(有難み⇒有ることが難しい⇒めったにない)」はとても適切な表現だった。

⇒「親友とは、もしものことがあれば相手のため自分のことはさておいても、当然のように手助けするような関係です。こんな関係はなかなかありません。ですから自分はもっと強くなりたいと思います。」・・・こういうふうに変化するとすばらしいね。

◎これで、練成1課題目の学習は終了です。優秀な作品が完成しました。よくがんばったね！